**＜初診問診票の例＞**

☆全て簡易に箇条書きの記入でお願いします。（長すぎると読むだけで20分以上要して他の診察に影響が出ることがあります。初診の場合は問診時間も長めの設定ですのでご安心下さい）。

**【現在の主な西洋病名あるいは症状】**

☆１番治したい病名や症状からご記入下さい。

例）炎症性腸疾患疑い：嘔吐下痢

　　アレルギー性皮膚炎：皮膚の赤み、痒み

　　慢性の咳（病名は聞いてません）

【現在の内服薬、外用薬、サプリメント】

☆ステロイド剤、免疫抑制剤、漢方薬、点滴に関しては、分かる範囲で薬の量も記載して下さい。

　連携承諾書があると連携医にご記入いただく欄もありますので、漢方薬との飲み合わせの確認ができます。

例）プレドニゾロン（プレドニン）5mg錠　0.5mg/kg （または1/2錠でも）　1日1回内服

消風散　1包　1日2回内服：量は不明。

　　皮下点滴（ソルラクト）　100ml 1日1回　嘔吐下痢がある時に3日間

　　セレニア　注射：嘔吐・咳が目立つ時のみ

　　ウルソ　1日1回内服

　　マイトマックススーパー　自己判断で内服

【幼少時から気にかかる症状（下痢・嘔吐など）、過去の病名、現在の病気の症状・検査・治療内容（西洋治療・漢方薬・サプリメント）～】

☆発症日付順に簡易に箇条書きに書いて下さい。特に治したい病名や症状に対しては、症状が悪化または軽減するきっかけがあればご記入下さい（東洋診断に重要）。

例）2011～2017年（1～7才）：鶏肉を食べると下痢になり皮膚が赤く痒みが出やすい。アレルギー検査をしたら、鶏肉など様々な項目で陽性になった。アレルギーのドックフードに変更し、症状が出た時にステロイドの注射と内服で治っていた。

　　2016年（6才）：皮膚の痒みが出やすいので、漢方薬局で消風散をもらい内服すると痒みが少しましな気がする。

　　2017年8月（7才）：咳（咳き込んだ後、飲み込む動作がある）もするようになり、食後に目立つ。血液検査では肝臓の数値（ALT）のみが高めだった。エコー検査では胆泥が少量あり、レントゲン検査では問題ないと言われた。ウルソの内服を始めた。

2018年9月（8才）：ステロイド剤でも下痢と嘔吐が止まりにくくなる。便の培養検査にて病原性のある細菌が出ていたので、抗生剤（ホスホマイシン）を内服したが下痢が続くため中止した。炎症性腸疾患の疑いがあるようです。 今はプレドニゾロン、ウルソ、マイトマックススーパー、消風散の内服と、下痢嘔吐が目立つ時は病院で皮下点滴とセレニア注射。